

ヴォルフガング・ライプ

Wolfgang Laib

1950- ドイツ

アーティスト。1974年に医学博士号を取得するも、その後アーティストとしての活動に専念する。ミルク、花粉、蜜蝋などを素材とした静謐で繊細な作品は、自然や、儂いものの中にひそむ美しさと強さをミニマルでストイックな緊張の中に表現している。

1950 - Germany

Artist. He achieved his PhD in Medicine in 1974, but devoted himself into activities as an artist. His serene and delicate work created with material such as milk, pollen, and beeswax express the beauty and strength that lies beneath nature and ephemeral things in a tension that is minimal and stoic.

ヴォルフガング・ライプ

タンポポの花粉

1988年

花粉

Wolfgang Laib

Pollen from Dandelion

1988

Pollen



<ライトシード展 1990年12月1日～1991年2月24日より> 「私は花粉それ自体が何であるかということに、ひきつけられたのです。花粉は驚異的な色彩を持っています。それは人には、絶対に出しえない色ですが、花粉は絵の具ではありません。花粉の色というのは、たくさんの性質のうちの一つに過ぎません。ちょうど手にも色があること、また血は赤いが、ただの赤い液体ではなく、ミルクは白いが、ただの白い液体ではないのと同じことです。それは青い絵の具と、空との違いなのです。」 ヴォルフガング・ライプ

本展では、インスタレーションで使用されたタンポポの花粉の花粉を展示。